

おはだ

ホクロ 恐るべし

〜ホクロとるべし〜

ガンの特徴

「足のうらのホクロはガンになる」

時々、マスコミでホクロのガンについて報道され、心配して来院される患者さんがおられます。

ホクロのガン、中でも最も怖い悪性黒色腫（メラノーマ）の特徴ですが、

- ① 足の裏にある
- ② 大きさが7ミリ以上
- ③ いびつな形をしている
- ④ 色に濃淡がある
- ⑤ しみ出し現象がある
- ⑥ 急に大きくなってきた

などです。これは目安であり、このような特徴のない悪性黒色腫もあります。

ガンはなぜ怖い

ガンの恐ろしいところは自覚症状のない点です。ガン細胞が一つできた時、ものすごい傷みを伴うならば、ガンで死ぬ人はいないでしょう。すぐに治療するからです。ガンは自覚のないままに、徐々に大きくなり、気づいたときには手遅れということが多いため怖いのです。

治療は早いうち

皮膚は表皮（ひょうひ）と真皮（しんぴ）の2層構造になっています。表皮と真皮の間には、硬い基底膜という膜で遮断されています。悪性黒色腫というガンは表皮の中で作られます。ガン細胞が増えてくると基底膜を破って真皮へ広がります。

ます。ガン細胞が表皮にある時、つまり早期にガンを切除してしまえば、多くの場合助かります。基底膜を破って真皮までガンが広がっていると、治療も難しくなってきます。

若い人も危険

先日、医学論文に驚きの記事が載っていました。悪性黒色腫は若い人は滅多にならないと思っていたところ、二十代の患者さんが載っていました。

二十七歳女性。生まれた時からお腹にホクロがあったそうです。2年前から、ホクロの一部が盛り上ってきたために病院に行きました。ホクロの大きさは縦5センチ、横3センチでした。検査の結果、悪性黒色腫と診断されました。また、二十五歳の男性。幼稚園の時から、お腹に6〜7ミリくらいの盛り上がったホクロがあったそうです。右わきのリンパ節が腫れてきたので病院に行ったところ、お腹のホクロが悪性黒色腫であり、右わきのリンパ節に転移していることが分かりました。2人とも治療の甲斐もなく、約一年後に亡くなりました。

ホクロとるべし

「若いから」
「ホクロが小さいから」
「生まれた時からあるから」

そのような理由で良性的とは限りません。ホクロは専門家がみれば、良性的か悪性的かだいたい分かりますが、「まず良性的だろう」と思って切除してみると悪性だったということもあります。早期に切除すれば治り、手遅れなれば命を失う病気だけに、積極的な切除をお勧めしております。

手術方法は、小さいものならばレーザーで比較的きれいに取れます。一センチ以上のものは、局所麻酔をして紡錘形に切り取り縫います。一週間くらいで抜糸ができ、その間、二回ほど通院が必要です。局所麻酔をしますから、痛みはほとんどありません。

心配なホクロがありましたら、お気軽にご相談ください。

